

平成24年10月の解説（府県天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、北日本では天気は数日の周期で変わり、台風第17号、第19号や気圧の谷の影響により太平洋側を中心に曇りや雨の日がありました。また、北日本は気温が高い日が多くなりました。東・西日本と沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

中旬は、北日本では北海道を中心に気圧の谷の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりましたが、東北地方から東・西日本にかけては旬の前半を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美では、旬の中頃にかけては、前線や台風の影響により、曇りや雨の日が続きました。なお、17日から19日にかけては、台風第21号の影響により全国的に雨となり、東日本から沖縄・奄美にかけては大雨となった所がありました。

下旬は、北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。23日と28日は日本海から北海道付近を通過した低気圧の影響により全国的に雨となり、大雨となった所がありました。

月平均気温は、北日本でかなり高く、東日本で高くなりました。一方、沖縄・奄美では低くなりました。西日本では平年並でした。月降水量は、北日本の太平洋側、東日本の日本海側で多くなりました。北日本の日本海側、東日本の太平洋側、西日本では平年並でした。沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、東・西日本の太平洋側でかなり多く、東・西日本の日本海側で多くなりました。北日本、沖縄・奄美では平年並でした。

【10月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は87%で例年値^(注)より3ポイント高く、明後日予報は例年値より5ポイント高い85%でした。各地方の適中率では、明日予報は東海地方、四国地方、九州北部地方、九州南部地方及び沖縄地方で例年値より5～8ポイント高くなりました。明後日予報は北陸地方、四国地方及び九州南部地方で例年値より7～9ポイント高く、東海地方と九州北部地方では10～11ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国的に例年値より小さく、東北地方と九州南部地方では例年値より0.5℃小さくなりました。全国平均は例年値より0.3℃小さい1.3℃でした。最低気温の予報誤差は、全国的に例年値と同じか例年値より小さく、全国平均は例年値より0.2℃小さい1.3℃でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の天気予報の利用にあたって】

12月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪の降る日が次第に多くなり、山沿いや日本海側を中心に大雪になることもあります。

低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や日本海側を中心に暴風や高波、大雪、着雪、ふぶき、突風等による列車の運休や航空便及び船便の欠航、路面の凍結などの交通機関への影響、また、停電などの被害が発生するおそれもあります。各地の气象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し事前に備えるようにして下さい。